

## 内田頼重家文書概要

- 1: 文書群番号 099002
- 2: 文書群名 内田頼重家文書
- 3: 出所 内田頼重家
- 4: 家業・役職等 近世・近代：尼崎藩藩士／尼崎藩藩校正業館西寮教官
- 5: 地名 摂津国川辺郡別所村／兵庫県川辺郡別所村／尼崎市別所／尼崎市御園町ほか
- 6: 行政区分 尼崎藩領／尼崎町／尼崎市
- 7: 歴史  
内田家は桜井松平氏が信州飯山に在城中の慶安3年(1650)に仕官、松平氏にしたがって遠江掛川を経て宝永8年(1711)尼崎へ移った。幕末までに大坂蔵屋敷留守居役・目付・使番・物頭・弓組頭などを務めた上級家臣で、持高は100石前後、享保16年(1731)には200石あった。また、家中では軍学・武術の師を務めており、明治初年には中谷雲漢（儒学者、正業館の初代督学[校長]）の高弟であった当主頼重が尼崎藩藩校である正業館西寮教官として庶民教育にあたり、主に漢学を指南した。
- 8: 伝来  
岡本元興氏の祖父で『尼崎藩学史』の著者である故岡本静心氏が同書執筆中に、内田家より収集した文書群。平成10年(1999)5月、岡本元興氏より寄贈を受けた。
- 9: 史料入手先 岡本元興氏(大覚寺住職)
- 10: 点数 78点（目録件数72件）
- 11: 年代 元禄8年(1695)～大正元年(1912)
- 12: 構造と内容  
①近世を中心とした書籍史料②明治20年代から大正初年の聖像奉祀会関係史料から構成される。①は書籍群としても価値があるが、中でも『孫子』等の兵法書・『甲陽軍鑑』等の軍記物が多く、また軍記物語的色彩の強い歴史書『三河物語』『盛長私記』も含まれており、内田家の軍術の師としての経歴を反映した内容となっている。この他に着彩画を掲載した解剖書もある。②は毎年一回冬至の日に旧藩主から下賜された聖像をたたえる積奠の礼を行う会、聖像奉祀会関係の史料である。積奠の礼で儀式中に使用された祭文（漢詩）や会・儀式の運営関係史料が中心で、積奠の全容を知ることが難しいが、近世藩校での積奠が近代においていかなる変遷を遂げたか知る上で少しながら手掛かりとなる史料である。
- 13: 関連史料 内田繁氏文書(1)(2)
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 河島裕子